

聖週間 主の過越の聖なる3日間の祭儀について



2026年は2月18日の「灰の水曜日」から四旬節に入りました。教会の典礼は、キリストの生涯の主な出来事を記念することによって、私たちがキリストの救いと恵みにあずかるようになっていきます。キリストの受難と死を通して復活の栄光を記念する祭儀は、教会の典礼の中心です。

2026年の聖週間は3月29日の受難の主日（枝の主日）から始まり、4月5日の復活祭までの8日間です。聖週間を通じ、教会の典礼に現存するキリストと一致して主の救いのみわざを記念し、ともに賛美と感謝を捧げましょう。（典礼委員会）

【受難の主日】

3月28日（土） 17時

3月29日（日） 7時・9時



この日から教会は、過越の神秘を完成するためにエルサレムに入城されたキリストに思いを馳せます。そのため、3月28日（土）17時から3月29日（日）のすべてのミサの中で主の入城が記念され、会衆の私たちは枝を手にとって司祭による枝の祝福を受け、エルサレム入城の福音朗読が行われます。

9時ミサの前にはアトリウムに集まり、枝の祝福、福音朗読の後、行列を行います。なお、この枝は翌年回収するまで各々で1年間保管してください。

【受難の水曜日・聖香油ミサ】

4月1日（水） 11時 大阪高松大司教区カテドラル（玉造教会）

聖香油のミサは、大司教を囲む司祭全員の一致を表すべきものであるため、共同司式で行われます。説教後に、司祭として約束したことを公に更新します。大司教によって「聖香油」が聖別され、「洗礼志願者の油」と「病者の油」が祝福されます。これら3つの油は司祭が小教区に持ち帰り、1年間使われます。



【聖木曜日・主の晩餐の夕べのミサ】

4月2日（木） 19時

この日から「過越の聖なる3日間」が始まります。キリストが聖体を制定し、ミサ聖祭、司祭職の秘跡を制定した最後の晩餐を直接記念するものとして、必ず夕方に行われます。ミサの中では、具体的な神の愛としての聖体の秘跡、そして兄弟姉妹への愛を思い起こさせるために洗足式と、聖体安置式が行われます。その後、司式者と奉仕者は、祭壇上のすべてのものを取り除き、裸の状態にします。キリストの受難と死が始まったことのしるしです。安置された聖体の前で各自しばらく祈ることが勧められます。

【聖金曜日・主の受難の祭儀】

4月3日（金） 15時 十字架の道行
19時 主の受難の祭儀



キリストが亡くなられたこの日は大斎・小斎を守ります。この日の典礼は「ことばの典礼」、「十字架の崇敬」及び「交わりの儀」の3つの部分で構成されています。キリストは私たちから奪われ「不在」になります。そのために、キリストの受難と死を思い起こすに相応しい箇所を朗読する「ことばの祭儀」が行われます。キリストの「不在」を示すために祭壇には何も飾らず、十字架もろうそくも置かず、祭壇布もかけられず「裸」のままにし、入祭の歌も歌いません。

イエスの受難を黙想し、自らの罪深さを認め、多くの兄弟姉妹の苦しみ痛みを共感します。

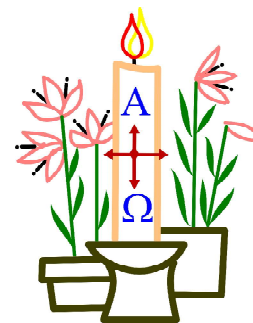
【復活の聖なる徹夜祭】

4月4日（土） 19時

復活徹夜祭は下記の4つの部分で構成されています。

「火」、「水」、「復活のろうそく」など、キリストの復活と新しいいのちを象徴するシンボルが多く用いられます。

第一部 光の祭儀:教会のアトリウムに火が準備され、皆はろうそくを手持って集まります。司祭は火を祝福し、その新しい火で復活のろうそくを灯します。復活のろうそく、その光こそが、復活したキリスト、今も私たちの中で生きておられ光を輝かせているキリストのシンボルで、復活徹夜祭の中心となります。



第二部 みことばの典礼:創世記の天地の創造から、新約の復活の出来事に至る神の救いの歴史が語られます。私たちはそれを通して、神が人類の歴史の始まりから共に歩み、キリストを通して私たちを救ってくださったという壮大な神のみ手のわざを実感し感謝します。

第三部 洗礼と堅信・洗礼の約束の更新:洗礼の秘跡は「水に浸される（洗われる）」しるしによって、キリストの死と復活に浸されて、神の子として新たに誕生することを表します。堅信の秘跡は「油が注がれる」（塗油）のしるしによって、弟子たちの上に聖霊が注がれたように、受洗者が聖霊降臨の神秘にあずかります。その後、「洗礼の約束の更新」が行われます。

今年は14名の兄弟姉妹が入信（洗礼、堅信、聖体）の秘跡を受けられます。

第四部 感謝の典礼:主が死と復活を通して私たちのために準備された食卓を皆で分かち合います。

【復活の主日】

4月5日（日） 7時・9時

主の復活は既に成し遂げられています。主の復活を信じ、希望をもって喜びと平和のうちに過ごします。

